

# 薬剤部

## 1 構 成 員

	平成23年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
助手(うち病院籍)	0人 (0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	6人 (3人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	29人
その他(技術補佐員等)	6人
合計	42人

## 2 教員の異動状況

川上 純一(教授)(H18.4.1～現職)

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	9編 (3編)
そのインパクトファクターの合計	16.96
(2)論文形式のプロシーディングズ数	8編
(3)総説数(うち邦文のもの)	11編 (11編)
そのインパクトファクターの合計	0.37
(4)著書数(うち邦文のもの)	3編 (3編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

### (1) 原著論文(当該教室所属の者に下線)

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Naito T, Tokashiki S, Mino Y, Otsuka A, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of concentrative nucleoside transporter 1 gene polymorphism on oral bioavailability of mizoribine in stable kidney

transplant recipients. *Basic Clin Pharmacol Toxicol* 106: 310–316, 2010

インパクトファクターの小計 [ 2.31 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Hori K, Yoshida N, Okumura T, Okamura Y, Kawakami J: Method for the evaluation of the stability and usability after opening packages of orally disintegrating tablets: in case of amlodipine besilate products. *Yakugaku Zasshi* 130: 1029–1040, 2010
2. 高木なつ子, 加藤明彦, 仲山順子, 齋藤えり子, 深谷文香, 山本知広, 金子誠, 平野美佳子, 山内克哉, 中村利夫, 青木克憲, 峯田周幸: 頭頸部がん治療による体重減少および経口摂取不足に対し, NSTによる栄養介入の有用性. *日本病態栄養学会誌* 13: 35–39, 2010
3. 渡辺浩, 木村友美, 堀雄史, 川上純一, 木村道男: 病院情報システムを基盤とする臨床研究情報検索システム D ☆ D の概要と利用事例. *薬剤疫学* 15: 97–106, 2011

インパクトファクターの小計 [ 0.37 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Katoh Y, Uchida S, Kawai M, Takei N, Mori N, Kawakami J, Kagawa Y, Yamada S, Namiki N, Hashimoto H: Onset of clinical effects and plasma concentration of fluvoxamine in Japanese. *Biol Pharm Bull* 33: 1999–2002, 2010
2. Sai Y, Nishimura T, Ochi K, Tanaka N, Takagi A, Tomi M, Kose N, Kobayashi Y, Miyakoshi N, Kitagaki S, Mukai C, Nakashima E: Proton-coupled erythromycin antiport at rat blood-placenta barrier. *Drug Metab Dispos* 38: 1576–1581, 2010
3. Yoshida A, Maruyama S, Fukumoto D, Tsukada H, Ito Y, Yamada S: Noninvasive evaluation of brain muscarinic receptor occupancy of oxybutynin, darifenacin and imidafenacin in rats by positron emission tomography. *Life Sci* 87: 175–180, 2010
4. Ishizaki J, Fukaishi A, Fukuwa C, Yamazaki S, Tabata M, Ishida T, Suga Y, Arai K, Yokogawa K, Miyamoto K: Evaluation of selective competitive binding of basic drugs to alpha1-acid glycoprotein variants. *Biol Pharm Bull* 33: 95–99, 2010
5. Yamashita A, Kumazawa T, Koga H, Suzuki N, Oka S, Sugiura T: Generation of lysophosphatidylinositol by DDHD domain containing 1 (DDHD1): Possible involvement of phospholipase D/phosphatidic acid in the activation of DDHD1. *Biochim Biophys Acta* 1801: 711–720, 2010

インパクトファクターの小計 [ 14.28 ]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Naito T, Yamamoto K, Takashina Y, Tashiro M, Kagawa Y, Ohnishi K, Kawakami J: Impact of CYP2D6 and CYP3A5 gene polymorphisms on pharmacokinetics of oxycodone and its demethylates

- and dose escalation rate in cancer patients. *Basic Clin Pharmacol Toxicol* 107: S482–483, 2010
2. Takashina Y, Naito T, Mino Y, Ohnishi K, Kawakami J: Impact of CYP3A5 and ABCB1 gene polymorphisms on plasma disposition of fentanyl and its clinical responses in cancer patients with opioid switching to fentanyl transdermal system. *Basic Clin Pharmacol Toxicol* 107: S602, 2010
  3. 見野靖晃, 内藤隆文, 下山久美子, 小川法良, 川上純一: 全身性エリテマトーデス患者におけるミコフェノール酸とそのグルクロン酸抱合体の体内動態に及ぼす金属カチオン含有製剤の影響. *臨床薬理* 41: S220, 2010
  4. 田代将貴, 内藤隆文, 高科嘉章, 賀川義之, 川上純一: オピオイド服用患者におけるプロクロルペラジンによるプロラクチン分泌挙動に及ぼす影響因子の評価. *臨床薬理* 41: S229, 2010
  5. 渡邊崇之, 見野靖晃, 山田尚広, 八木達也, 金子貴則, 内藤隆文, 山田浩, 川上純一: 易感染性患者におけるイトラコナゾールとその代謝物の血中動態特性と代謝過程における飽和性の評価. *臨床薬理* 41: S230, 2010
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
1. Suzuki Y, Nagai N, Yamakawa K, Kawakami J, Lijnen HR, Umemura K: Tissue-type plasminogen activator (t-PA) induces intracranial bleeding through stromelysin-1 (MMP-3) induction in endothelial cells via low-density lipoprotein receptor family. *J Thromb Haemost* 8 (Suppl): 3, 2010
  2. Hori K, Yamakawa K, Yoshida N, Ohnishi K, Kawakami J: Detection of fluoroquinolone-induced tendon disorders using a hospital database. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* 19: S139–140, 2010
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 吉田直子, 堀雄史, 木村和子, 大西一功, 川上純一: がん化学療法におけるCPT-11と半夏瀉心湯の併用実態と副作用発現との関連性の評価. *臨床薬理* 41: S256, 2010

### (3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Naito T: Optimal immunosuppressive therapy based on pharmacokinetics and pharmacodynamics of antimetabolites in clinical practice. *Yakugaku Zasshi* 130: 1695–1700, 2010
  2. 川上純一, 赤瀬朋秀, 恩田光子, 草間真紀子, 佐藤博, 林昌洋, 福田敬: 平成 21 年度学術委員会学術第 5 小委員会報告: ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討. *日本病院薬剤師会雑誌* 46: 1004–1007, 2010
  3. 内藤隆文, 八木達也, 川上純一: 重症感染症患者におけるリネゾリドの血中動態、組織移行性および抗菌作用. *臨床薬理の進歩* 31: 97–105, 2010
  4. 川上純一: 学会発表・論文執筆は薬剤師の活動の一環: 臨床研究の活性化で職域拡大を. *医薬ジャーナル* 46: 2670–2671, 2010
  5. 川上純一: 新薬創出等加算の波及効果: 新薬創出をめぐる新環境. *新薬展望* 2011, 医薬ジャー

ナル 47: 242-251, 2011

6. 川上純一：薬剤経済学に基づいたファーマシューティカルケアとジェネリック医薬品の位置づけ：原則と基本的な考え方，成熟期を迎えるジェネリック医薬品．薬局 62: 41-44, 2011
7. 川上純一：「顔の見える薬剤師」を目指すのは，もう古い．日本病院薬剤師会雑誌 47: 137, 2011
8. 川上純一：巻頭言．静岡県病院薬剤師会会報 60: 3-5, 2011
9. 川上純一，堀雄史，佐野慎亮：病院が所有する臨床データベースを用いた抗精神病薬の多剤併用および副作用発現の調査の方法に関する研究．樋口輝彦（代表），稲垣中，川上純一，松田公子，伏見清秀，伊藤弘人：慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究，厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業，平成 22 年度総括・分担研究報告書，p.15-21, 2011
10. 鈴木吉成：浜松医科大学附属病院新棟薬剤部について．静岡県病院薬剤師会会報 60: 72-77, 2011
11. 山本知広：Case report NST: 短腸症候群患者に対する栄養および血糖管理に介入した症例．月刊薬事 53: 304, 2011

インパクトファクターの小計 [ 0.37 ]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一（分担執筆）：クロルプロマジン，イミプラミン，アミトリプチリン，アプリンジン，アミカシン，パラコート；臨床検査データブック 2011-2012, 高久史磨監修，黒川清，春日雅人，北村聖編集，医学書院，東京，2011 年
2. 内藤隆文，川上純一（分担執筆）：実務実習で役立つ知識．実務実習で求められる知識．TDM（薬物治療モニタリング），医学評論社，p.33-36, 東京，2011 年

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 川上浩司，後藤伸之，川上純一，恩田光子，漆原尚巳（監訳），中山健夫（監修）：薬剤師業務のさらなる発展：患者中心のケアを目指して，2006 年版ハンドブック，メディカルドゥ，大阪，2011 年

#### 4 特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数(出願中含む)	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成22年度
(1)文部科学省科学研究費	6件 (402万円)

(2)厚生科学研究費	1件 ( 100万円)
(3)他政府機関による研究助成	2件 (30.28万円)
(4)財団助成金	0件 ( 0万円)
(5)受託研究または共同研究	0件 ( 0万円)
(6)奨学寄附金その他(民間より)	0件 ( 0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 川上純一（代表）、内藤隆文（分担）：平成 22 年度科学研究費補助金、基盤研究（C）「がん性疼痛患者におけるオピオイド鎮痛薬の体内動態と薬効・副作用の変動予測法の構築」100 万円（継続）
2. 内藤隆文（代表）：平成 22 年度科学研究費補助金、若手研究（B）「個別化緩和医療に向けた遺伝情報に基づくオピオイド鎮痛薬間の至適投与量換算法の開発」90 万円（継続）
3. 稲川和香（代表）：平成 22 年度科学研究費補助金、奨励研究「口腔内崩壊錠に関する意識調査と治療効果への影響の検証」50 万円（新規）
4. 門口直仁（代表）：平成 22 年度科学研究費補助金、奨励研究「多発性骨髄腫におけるボルテゾミブの体内動態変動要因の解析と副作用予測法の確立」57 万円（新規）
5. 村松英彰（代表）：平成 22 年度科学研究費補助金、奨励研究「MRSA のバンコマイシン感受性変化に対するバンコマイシン使用状況の影響」57 万円（新規）
6. 久保野尚子（代表）：平成 22 年度科学研究費補助金、奨励研究「妊娠合併症治療に必要な薬剤の母乳中濃度測定法の確立と児に与える影響に関する研究」48 万円（新規）

(2) 厚生科学研究費

1. 川上純一（分担）：平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金、医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究」100 万円（新規）

(3) 他政府機関による研究助成

1. 内藤隆文：国立大学法人浜松医科大学、平成 22 年度若手研究者の国際学会発表支援事業 20 万円
2. 高科嘉章：国立大学法人浜松医科大学、平成 22 年度大学院生の国際学会発表支援事業 10.28 万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1)特別講演・招待講演回数	0件	4件
(2)シンポジウム発表数	0件	2件
(3)学会座長回数	0件	20件
(4)学会開催回数	0件	1件

(5)学会役員等回数	1件	22件
(6)一般演題発表数	5件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Suzuki Y, Nagai N, Yamakawa K, Kawakami J, Lijnen HR, Umemura K: Tissue-type plasminogen activator (t-PA) with ischemia induces the intracranial bleeding through stromelysin-1 (MMP-3) induction in endothelial cells via low-density lipoprotein receptor family. XIX European Stroke Conference (ESC 2010). May 2010 (Barcelona, Spain)
2. Naito T, Yamamoto K, Takashina Y, Tashiro M, Kagawa Y, Ohnishi K, Kawakami J: Impact of CYP2D6 and CYP3A5 gene polymorphisms on pharmacokinetics of oxycodone and its demethylates and dose escalation rate in cancer patients. 16th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WorldPharma2010). Jul 2010 (Copenhagen, Denmark)
3. Takashina Y, Naito T, Mino Y, Ohnishi K, Kawakami J: Impact of CYP3A5 and ABCB1 gene polymorphisms on plasma disposition of fentanyl and its clinical responses in cancer patients with opioid switching to fentanyl transdermal system. 16th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WorldPharma2010). Jul 2010 (Copenhagen, Denmark)
4. Hori K, Yamakawa K, Yoshida N, Ohnishi K, Kawakami J: Detection of fluoroquinolone-induced tendon disorders using a hospital database. 26th International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Aug 2010 (Brighton, UK)
5. Suzuki Y, Nagai N, Yamakawa K, Kawakami J, Lijnen HR, Umemura K: Tissue-type plasminogen activator (t-PA) induces intracranial bleeding through stromelysin-1 (MMP-3) induction in endothelial cells via low-density lipoprotein receptor family. 20th The International Society for Fibrinolysis and Proteolysis (ISFP) Congress, Aug 2010 (Amsterdam, The Netherlands)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 川上純一：日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010, 静岡, 2010年11月

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 川上純一：薬剤部マネジメントとファーマシューティカルケアの薬剤経済：Pharmaceutical care がもたらす医療の質的向上と経済効果。第40回医療薬学公開シンポジウム, 日本医療薬学会, 堺, 2010年9月
2. 川上純一：薬剤師が行う臨床研究の進め方：学会発表・論文執筆のスキルアップ, 第43回日本薬剤師会学術大会, 長野, 2010年10月
3. 川上純一：ファーマシューティカルケアと薬剤経済：概論。第20回日本医療薬学会年会, 千葉, 2010年11月

4. 内藤隆文：免疫抑制薬の TDM を基盤とした薬物治療管理のためのエビデンスの構築．平成 22 年度日本医療薬学会奨励賞受賞講演，千葉，2010 年 11 月

3) シンポジウム発表

1. 内藤隆文，川上純一：「医薬品情報学研究を考える！若き研究者が語る」．臨床薬理学の研究者の立場から．第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会，浜松，2010 年 7 月
2. 内藤隆文：がん性疼痛緩和におけるオピオイド鎮痛薬の体内動態情報に基づく個別化投与量換算法の構築．第 20 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会．平成 22 年度 日本薬学会東海支部例会．合同学術大会 2010，静岡，2010 年 11 月

4) 座長をした学会名

1. 川上純一：静岡県病院薬剤師会西部支部例会（4 月）
2. 川上純一：静岡県病院薬剤師会西部支部例会（5 月）
3. 川上純一：第 27 回東海薬物治療研究会
4. 川上純一：静岡県病院薬剤師会西部支部例会（6 月）
5. 川上純一：第 26 回東海医療薬学シンポジウム
6. 川上純一：静岡県病院薬剤師会西部支部例会（7 月）
7. 川上純一：慶應義塾・ワシントン州立大学セミナー in 浜松医科大学薬剤部
8. 川上純一：第 13 回日本医薬品情報学会
9. 川上純一：脳卒中協会共同事業学術講演会
10. 川上純一：第 39 回日本医療薬学会公開シンポジウム
11. 川上純一：第 15 回静岡健康・長寿学術フォーラム
12. 川上純一：静岡県病院協会 平成 22 年度第 2 回医療事故防止対策研修会
13. 川上純一：第 20 回日本医療薬学会年会
14. 川上純一：第 43 回東海薬剤師学術大会
15. 内藤隆文：第 4 回次世代を担う医療薬科学シンポジウム
16. 川上純一：日本薬学会東海支部・日本病院薬剤師会東海ブロック合同学術大会
17. 川上純一：第 31 回日本臨床薬理学会年会
18. 川上純一：静岡県病院薬剤師会西部支部例会（1 月）
19. 川上純一：静岡県病院薬剤師会西部支部例会（2 月）
20. 川上純一：日本薬学会第 131 年会（3 月）

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一：日本病院薬剤師会 理事
2. 川上純一：日本病院薬剤師会 学術第 5 小委員会（ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討） 委員長
3. 川上純一：日本病院薬剤師会 国際交流委員会 委員
4. 川上純一：日本病院薬剤師会 学術委員会 委員

5. 川上純一：日本病院薬剤師会 学術奨励賞選考委員会 委員
6. 村松英彰：日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師部門研修委員会 委員
7. 村松英彰：日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師部門試験問題作成委員会 委員
8. 渡邊進士：日本病院薬剤師会 日本病院薬剤師会雑誌 地域編集委員
9. 川上純一：静岡県病院薬剤師会 会長
10. 川上純一：静岡県病院薬剤師会 学生実習委員会 副委員長
11. 鈴木吉成：静岡県病院薬剤師会 理事
12. 渡邊進士：静岡県病院薬剤師会 評議員
13. 渡邊進士：静岡県病院薬剤師会 学術部 委員
14. 川上純一：国際薬剤疫学会 医薬品使用実態研究部会 運営委員
15. 川上純一：日本医療薬学会 評議員・代議員
16. 川上純一：日本医療薬学会 国際交流委員会 委員
17. 川上純一：日本臨床薬理学会 評議員
18. 川上純一：日本薬学会 医療薬科学部会 常任世話人
19. 内藤隆文：日本薬学会 医療薬科学部会 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム若手世話人
20. 川上純一：日本薬学会東海支部 幹事
21. 川上純一：日本薬物動態学会 評議員
22. 川上純一：日本ジェネリック医薬品学会 評議員
23. 川上純一：日本ジェネリック医薬品学会 国際委員会 副委員長

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	1件

### (2) 外国の学術雑誌の編集

1. 川上純一：Drug Metabolism Letters, Bentham Science Publishers, Editorial Advisory Board.

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 川上純一：Food Chem Toxicol (1件) (UK)
2. 川上純一：J Clin Pharmacol (1件) (USA)
3. 川上純一：J Pharm Pharmacol (1件) (UK)
4. 川上純一：J Pharmacol Exp Ther (1件) (USA)
5. 川上純一：Biol Pharm Bull (1件) (日本)
6. 川上純一：Yakugaku Zasshi (2件) (日本)
7. 川上純一：医療薬学 (4件) (日本)
8. 内藤隆文：Drug Metab Pharmacokinet (1件) (日本)



## 9 共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	9件
(3)学内共同研究	11件

### (2) 国内共同研究

1. 鈴木洋史（東京大学）：脂質および脂溶性ビタミンの消化管吸収の個人差を規定する遺伝的要因の解明
2. 樋口輝彦（国立精神神経センター）：慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究
3. 賀川義之（静岡県立大学）：がん患者における制吐薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
4. 山田浩（静岡県立大学）：抗真菌薬の体内動態と抗菌作用・有害作用の個人差要因の解析
5. 山田浩（静岡県立大学）：多発性骨髄腫患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
6. 川上浩司（京都大学）：白金系製剤を含む化学療法中に発現した悪心・嘔吐の治療にかかるコストの調査研究
7. 吉田直子（金沢大学）：がん化学療法における併用薬の使用実態調査と相互作用の予測に基づく安全性の確立
8. 徳永雄二（沢井製薬）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
9. 木村友美（ヤンセンファーマ）：がん化学療法におけるガイドラインの遵守状況の調査研究

### (3) 学内共同研究

1. 小川法良（免疫リウマチ内科）：全身性エリテマトーデス患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
2. 小川法良（免疫リウマチ内科）：関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
3. 大園誠一郎（泌尿器科）：腎移植患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
4. 大園誠一郎（泌尿器科）：白金系製剤を含む化学療法中に発現した悪心・嘔吐の治療にかかるコストの調査研究
5. 大西一功（血液内科）：多発性骨髄腫における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
6. 土井松幸（集中治療部）：重症感染症患者における抗菌薬の血中動態、薬剤感受性および組織移行性の評価
7. 土井松幸（集中治療部）：手術後疼痛に対する鎮痛薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
8. 加藤明彦（血液浄化療法部）：血液透析患者における抗菌薬の血中動態、薬剤感受性および

透析除去性の評価

9. 千田金吾（呼吸器内科）：非小細胞肺癌患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
10. 伊東宏晃（周産母子センター）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
11. 木村道男（医療情報部）：臨床研究情報システムを用いた副作用の検出方法の検討

## 10 産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

### (3) 国内での授賞

1. 内藤隆文：奨励賞，日本医療薬学会（平成22年度），2010年11月（千葉）．免疫抑制薬のTDMを基盤とした薬物治療管理のためのエビデンスの構築
2. 田代将貴，内藤隆文，高科嘉章，賀川義之，川上純一：優秀演題賞，第31回日本臨床薬理学会年会，2010年12月（京都）．オピオイド服用患者におけるプロクロルペラジンによるプロラクチン分泌挙動に及ぼす影響因子の評価
3. 高科嘉章，内藤隆文，見野靖晃，大西一功，川上純一：講演ハイライト，日本薬学会第131年会，2011年3月（静岡）．がん患者におけるフェンタニル貼付剤への切り替え後の鎮痛効果及び有害作用に及ぼすCYP3A5とABCB1の遺伝子変異の影響
4. 山田尚広，見野靖晃，渡邊崇之，八木達也，内藤隆文，山田浩，川上純一：講演ハイライト，日本薬学会第131年会，2011年3月（静岡）．イトラコナゾール内用液服用患者におけるその水酸化代謝物の血中動態特性の評価
5. 田代将貴，内藤隆文，高科嘉章，賀川義之，川上純一：講演ハイライト，日本薬学会第131年会，2011年3月（静岡）．オピオイドとプロクロルペラジン併用患者におけるプロラクチン分泌挙動の個人差要因の解析

## 15 新聞，雑誌等による報道

1. 川上純一：薬剤師が行う臨床研究の進め方：学会発表・論文執筆のスキルアップ（記事）．第43回日本薬剤師会学術大会プレ特集号，メディカルトリビューン，2010年9月1日
2. 柏木厚典，川上純一，橋本志穂，好本恵：もっと知りたい、糖尿病対策。そして、ジェネリック医薬品：選択肢増えた糖尿病治療薬，上手な使い分けを（全面広告記事）．日本経済新聞（夕刊），No. 444810, p.8, 日本経済新聞社，2010年10月28日
3. 川上純一：病院経営・管理への貢献に向けた薬剤部マネジメント（ビデオ）．生涯研修認定制度 e-ラーニングシステム，日本病院薬剤師会，2010年11月
4. 川上純一：薬剤師が行う臨床研究の進め方：学会発表・論文執筆のスキルアップ（ビデオ）．日本薬剤師会，2010年12月
5. 川上純一：薬剤師機能の経済的研究と評価の必要性（寄稿）．医療と薬剤．薬事日報 No.

10927, p.22, 薬事日報社, 2011 年 1 月 1 日

6. 川上純一: 気になる! ジェネリック医薬品 (番組出演), Sole いいね! SBS テレビ, 静岡放送株式会社, 放映日 2011 年 3 月 30 日
7. 川上純一: 川上会長「病院薬剤師の方向性」で特別講演: 静岡県病薬平成 22 年度臨時総会・評議員会・学術講演会 (記事). 薬事新報, No. 2674, p.23-24, 2011 年 3 月 24 日